

日中民間緑化交流 友愛植林派遣団が訪中



工事記念碑の除幕式



長江の堤防



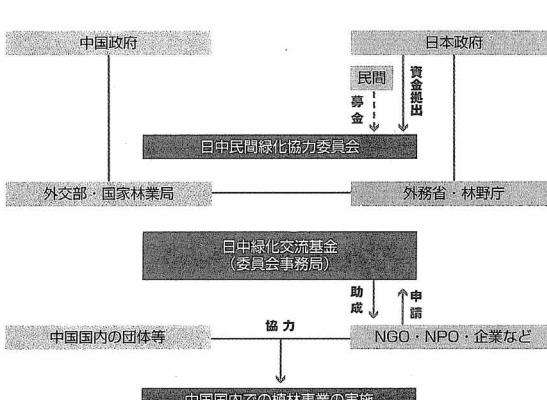
長江沿岸の不法家屋

由國の森林の現状

| | |
|-------------|----------|
| 森 林 面 積 | 159百万ha |
| 森 林 率 | 16.55% |
| 1人当たりの森林面積 | 0.1ha |
| 水 土 流 出 面 積 | 3億67百万ha |
| 砂 漠 化 地 域 | 2億62百万ha |

中国の6大森林業政策

- ・10大防護林建設事業
 - ・退耕還林事業
 - ・天然林保護事業
 - ・環北京地区防沙治沙事業
 - ・野生動植物保護及び自然保護区建設事業
 - ・林業・林産業団地建設事業



英語と世界史たどりの必ず読むよとに
してはいる。あとは、目についたところを解いて見る程度である。その程度で批評してもいいのはおこがましいが、英語で会話をに関する問題題を多くする(例えば発音、アクセントのおき方など)といったベーパーストの欠点を補う工夫がふえてきてる。世界史Bで「トレーマイオズの「地図」」の出題には思わずひざを打つた。

▼もつとも、私が受験生ならば平均して半分も出来ないだろう。これについては「記憶力」のおろえのせいではなく「基礎学力」の不足と

▼そういうことで、時評子は毎年新聞に掲載される「問題」を作成者の立場に同情（半分ぐらい）、あるいは野次馬として、読んでいる。もつとも新聞によつては、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、数学、情報関係基礎の問題などは省略されているが、問題を読みながら出題者の立場を考えているといふいろいろ想像力を乞ひたてられて、面白い。

▼したがつて、興味のある科目、これも加齢と共に変わってきたが、

▼ひとのところ毎年、新しい年のはじめに行われる行事としては、「成人式」よりも、「大学入試センター試験」の方がユース性が高いようだ。「試験問題の内容が次第に改善されでいることが「どうやるか」教授達を納得させてきているように思う。

▼と言うのも、若いころ入試問題を作成し編集を10年近くにわたって「やみきされてきた」経験があるからだ。この仕事の面倒くさがけんと、いうものは、それこそ実際にやった者でないとわからない、と言つてよいだらう。しかも、「ミスでも出たことにば、新聞にはさわがれる、出題者の「学問」そのものが問題にされる」ということもおもる。

友愛時評

